

各大学(原子力関連学科・専攻)の過去3年の入学者数

	定員	13年度	12年度	11年度
大学				
福井工業大*	25	16	10	34
東京都市大	30	42	38	40
東海大*	40	29	43	40
大学院(修士)				
東京大	22	23	28	23
東京大(専門職大学院)	15	18	14	17
東京工業大*	26	22	22	30
京都大*	23	22	23	24
長岡技術科学大*	20	12	15	—
福井大*	27	26	22	37
総合研究大学院大	4	5	4	7
東京都市大	15	22	21	13
早稲田大*	15	11	11	10

2013年度は4月末現在、読売新聞まとめ。※は13年度が定員割れしている大学・大学院。長岡技術科学大は12年度入学から募集開始

文部科学省が入学状況を調査している、「原子」のつく学科・専攻は、大学で3学科、大学院(修士課程)で9専攻ある。読売新聞が大・大学院の2学科5専攻

原発事故、政策迷走……

国内の主要大学・大学院にある原子力関係の3学科と9専攻のうち、2学科5専攻で今年度の入学者(4月末現在)が定員割れになっていることがわかった。背景には、原発事故によるイメージ悪化に加え、国の原子力政策が定まらず、将来が描けない学生の原子力離れがある。人材育成が滞れば今後の原発の廃炉作業にも影響が及びかねないため、関係者は危機感を強めている。

原子力将来描けぬ学生

7大・大学院定員割れ

(早稲田大は9月入学を含む)が定員割れしていた。東京大などは定員を満たしていた。

入学直前に辞退した人もいた。逆風の中、あえて原子力を学ぶ学生が減っている」と危機感を語る。

定員割れした大学は、原発事故直後の2011年度は大学院の2専攻だけだったが、12年度は6学科・専攻に増加。2年連続で定員割れした東京工業大で指導する井頭政之教授(放射線物理学)は、「親の反対で

電力会社などの関連企業でつくる日本原子力産業協会によると、同協会が毎年度、東京と大阪で開く学生向けの合同企業説明会の参加者は、12年度3000人で、原発事故前の10年度に比べ8割減少。参加企業も、採用減や中止で12年度は34社と10年度比でほぼ半減した。同協会は、「長引く原発の稼働停止や、原子力事業の将来見通しが不透明になっていることが学生や企業に影響した」としている。

日本原子力産業協会の合同企業説明会に参加した学生数・企業数の推移(同協会まとめ)

